

SNS チャットにおける感情表出の日中対照

楊 虹(鹿児島県立短期大学)

1. はじめに

SNS チャットの会話は、メディアを介した相互行為であり、メディアの特性による影響を受ける。相互行為の参加者は、相手の発話の解釈に、発話時の相手の表情や、発話のテンポ、音量等様々な非言語・パラ言語的情報を文脈化の合図として用いる (Tannen1989 ; 他)。SNS チャットでは、これら非言語・パラ言語的情報の欠如を補うため、気持ちや感情の伝達に、スタンプや絵文字などのビジュアル的要素のほか、感情表出の感動詞や、「笑」等参加者のやり取り時の気持ちや感情的側面を描写する特定の文字表現が用いられる (岡本, 2015 ; 三宅, 2019 ; 楊・倉田, 2023 ; 他)。楊・倉田 (2023) では、日本語母語場面及び日韓接触場面の LINE チャットにおける感動詞の文脈化の合図としての役割を示し、さらに、肯定的と否定的な感情表出の感動詞の使用における日本語母語話者と韓国語母語話者の異なる傾向を指摘している。今日では、日本語母語話者と他言語話者の SNS 接触場面のチャットは日常的なコミュニケーションの一形態となっており、異文化間の人間関係の構築や維持に大きな役割を果たしている。接触場面の SNS コミュニケーションをよりよく理解するためには、接触場面だけでなく、日本語母語場面と他言語母語場面の対照研究も必要だと思われる。

日本語母語場面と他言語母語場面の SNS チャットを相互行為的観点から分析した対照研究はまだ少ない (楊ら, 2018 ; 倉田, 2022)。楊ら (2018) は、日中のチャットの文字テキストの命題内容を「共感構築的・情報交換的観点」から分析し、日本語母語場面と比べ、中国語母語場面のやり取りでは情報交換が中心となる会話の展開を指摘している。また、相づちの日韓対照を行った倉田 (2022) は、日本語母語話者は「概念的表現」や「繰り返し」といった相づちが多く、韓国語母語話者には「感声的表現」が多く見られ、韓国語母語場面のチャットのやり取りが対話的であると報告し、両場面における相づち使用の異なる傾向からチャットのやり取りの様相の違いを明らかにした。以上のように日本語母語場面と他言語母語場面のチャットの会話の特徴についてある程度解明されてきたものの、チャットにおける感情表出の表現に着目した対照研究は管見の限りまだない。そこで、本研究では、日本語と中国語の母語場面における感情表出の表現を比較対照することにより、日中両言語母語場面の SNS コミュニケーションの特徴の一端の解明を試みる。

2. 目的と方法

本研究では、日本語母語場面 (以下 JS) と中国語母語場面 (以下 CS) の SNS チャット (日本語では LINE, 中国語では Wechat を用いたチャット) における感情表出の表現の使用実態を明らかにすることを目的とする。感情表出の感動詞 (楊・倉田 2023) 及び文から独立して使用される驚きや喜び等感情の反応を示す表現、情動を示すオノマトペなど感動詞的用法を持つと考えられる表現を分析の対象とする。具体的には、両場面における 1. 表現のバリエーション, 2. 表現の出現頻度を比較分析し、日中両場面の SNS チャットを用いたコミュニケーションにおける感情表出の特徴を考察する。

日本語母語場面 (JS) と中国語母語場面 (CS) の 1 対 1 の女性同士の SNS チャットの会話履歴をデータとした。データの収集時期は、2016~2023 年である。データの協力者 (大学生または大学院生) に、親しい友人 (社会人を含む) との会話について、直近からさかのぼり 300 送信分以上のチャット履歴の提供を依頼し、データを収集した。自然会話であるため、会話の状況や、話題のコントロール等は一切行っていない。収集時の平均年齢は、JS は 20 歳であり、CS は 22 歳である。分析対象は、JS, CS それぞれ 19 組であり、1 組 300 送信分で、それぞれ計 5700 送信分である。

本研究では、感情表出の感動詞 (楊・倉田, 2023) 及び定型性が高く、文の構成要素から独立して用いられる感動詞に準じる感情表出の表現を対象とする。澤村 (2011) の非概念系感動詞と概念系感動詞を参考に、2 カテゴリー、4 タイプに分類した (表 1 参照)。非概念系の下位分類については、日本語は『現代感動詞用法辞典』 (浅田, 2017)、中国語は『現代漢語大詞典第 6 版』 (中国社会科学院語言研究所詞典編集室, 2012)、『現代漢語虚詞詞典』 (朱, 2007) 等を参照して分類を行った。ただし、『現代感動詞用法辞典』では笑い声を表す定型的な表現「ふふふ」「えへ」等が立項されているのに対し、中国語では、感動詞に擬声語は含まれない。本研究では日中対照を行うため、日本語の分類に合わせ、中国語の笑いを表す定型的表現である「哈哈哈」「嘻嘻」等も「1 非概念系 a. 定型」に分類することにした。2 概念系の下位分類「a. 定型」は、「やった」

等従来感動詞として捉えられるもののほか、単独で用いられ、語彙的意味の稀薄化、定型化が進み、感動詞的用法を有すると思われる表現（例：「うそ」「最高」）を含む。「b. 行為描写型」は、主に SNS 等書記言語に見られる書き手の感情や表情等を示す定型表現であり、SNS 特有の感動詞と位置付けられる。

表1 感情表出の感動詞の分類

カテゴリー	タイプ	例（日本語）	例（中国語）
1 非概念系	a. 定型：指示詞、オノマトペ等に基づくもので、定型化した感動詞	あ、あれ、え、ふふふ	哇、哼、嘻嘻、哈哈
	b. オノマトペ型：上記以外の生理音の模写	うへー、ぐああああ	哎嘿嘿、嘎嘎
2 概念系	a. 定型：形容詞や動詞、名詞、句、文等意味のある言葉が素材の感動詞、定型表現	やばい、やった、最高	我的妈呀、天呐
	b. 行為描写型	笑、ww、泣、草	笑死

上記の分類に基づき、生じた表現を整理し、日、中の2カテゴリー、4タイプそれぞれの表現の形式とバリエーション及び生起頻度を比較し、両場面の使用特徴を質的に考察していく。

3. 結果と考察

3.1 形式とバリエーションについて

日中両場面で生じた感情表出の感動詞の形式の分析結果を表2に示す。日本語については、母音の引き伸ばしや長音のバリエーションが違うもの、促音が挿入・付加されるものなどを異形態とみなして同じ種類とし、異形態がある場合は、最も短い形式で示し、（ ）で異形態を適宜提示する。中国語の場合、同音または近似音の異なる漢字表記や、発音記号であるピンイン（または頭文字）で表記するものを同じ感動詞の異形態とする。また、日中ともに表現の一部を省略したものが見られ、それらも同じ感動詞の異形態とする。なお、紙幅の関係で、表2では、中国語の日本語訳は省く。

表2 日、中両場面で生じた感情表出の感動詞のバリエーション

カテゴリー・タイプ	JS	CS
1 非概念系 a. 定型	ああ、あら、あれ、うう、うわ（うつつわ）、え、えへ、お（おー）、おん（おんおん）、ガハハ、きゃ、ギャハハ、は、はあ、ヒイイ、フー、ふふふ、ほお、わ、わーい、ん、Hahahahaha	啊、哎呀、哎哟喂、咦、呜呜、哦、哇、哇哦、哇塞、害 ² 、哼、哟、嘻嘻、哈哈、嘿嘿、啧
1 非概念系 b. オノマトペ型	あいちゃ、いえあー、いえーい、うううあう、うおおおおおおおおお、ウキヤキヤキヤキヤ、うひよ、うへー、おっおっおう、ぐああああ、ぐぞおおおおお、おおああああああいあ、てへぺろ、ぴえー、ぴえん、ふあ、ふお、ふおんふおん、ふひやーお	耶、嗷、切、嘎嘎、啊哈哈、噗哈哈哈哈哈、哎嘿嘿
2 概念系 a. 定型	いや（いやあ）、うそ、がち、くそ、こら、最高、そんな、まじ（まじか、まじで）、やった、やばい（やば	吼、我的妈呀（我滴妈、玛雅）、天呐、我天、可恶、要命、救命了、完了、奶奶的、他妈（tm）、草泥马（你妈/尼玛）、娘的、妈的（mua的/md）、卧槽（woc/操/擦/草/++/握草）、我靠、我去、干、日
2 概念系 b. 行為描写型	笑、爆笑、w、泣、草、わろた	笑死（笑死了/笑鼠了/笑三）、哭死

¹ 例えば、「我滴妈（我的妈）」は、「我的妈呀」から「呀」を省略し、「玛雅（妈呀）」は、「我的妈呀」から「我的」を省略した形と捉えられる。日本語では「やば」が該当する。

² ため息や落胆の気持ちを表す「害」は近年 SNS では「害」と表記するのが一般的である。本研究のデータではすべて「害」であるため、そのまま掲載している。

表2を見ると、1非概念系のa.定型とb.オノマトペ型のいずれにおいても、CSと比べ、JSにはより多くのバリエーションが見られた。JSでは日常生活でよく用いられる定着度の高い感動詞だけでなく、表音文字であるひらがな・カタカナを用いてその場で生起する感情の表出に様々な新奇的な擬声語を創り出している。それに対して、CSにおいては、JSほどのバリエーションがないものの、既有的感動詞と擬声語を組み合わせた新たな表現（例：哎嘿嘿）も見られた。SNSチャットにおいて、日本語母語話者と中国語母語話者が様々な感情表出の表現を用いて会話に参加し、積極的に「関与」しているという共通の特徴が見られた。

一方で、2概念系の感動詞を見ると、2a.定型においては、CSに比較的多くのバリエーションが見られ、2b.行為描写型においては、JSもCSも「笑う」と「泣く」という二つの行為を描写する表現が見られ、大きな違いはない。また、2a.定型に生起した表現を見ると、JSの場合、「最高」「やった」等肯定的な感情表出と、「うそ」「まじ」等肯定的、否定的感情表出のいずれにも用いられる表現が大勢を占め、否定的感情表出は「やばい」「くそ」と「こら」のみである。一方のCSにおいては、肯定的なニュアンスを持つのは、テンションが高いことを示す「吼」のみである。残りは全て否定的な感情表出である。これら否定的感情表出はさらに①否定よりの驚愕（「我的妈呀（我滴妈，玛雅）」、「天呐」等、日本語では「神様」という意味）、②完全に否定的感情（「可恶」、「要命」、「完了」等。否定的な「やばい」に近い）、③卑語・タブー語（表2で「妈妈的」以下の表現）という3つに分けられる。本研究のデータから様々なバリエーションの卑語・タブー語が見られ、対象者が全員女性であることを考えると、これら多種多様な卑語・タブー語の出現が目を引く。椎名（2023）では、「仲の良さを確認する儀式」として卑語が用いられると述べており、本研究では、これら卑語・タブー語を敢えて使用することにより、CSでは、チャットの会話の参加者は、否定的な感情を気兼ねなく表出することにより相手との親しさを示しているのではないかと推察する。

3.2 生起頻度の比較

日中両場面に見られた上記の2カテゴリ4タイプの感情表出の感動詞の生起頻度を分析し、対応のない *t* 検定を用いてJSとCSにおける各タイプの生起頻度を比較した（表3参照）。

表3 感情表出の感動詞の生起頻度の日中比較（回/300送信）

	JS		CS		
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	
1非概念系 a. 定型	9.0	4.4	24.5	20.8	**
1非概念系 b. オノマトペ型	1.0	1.6	2.3	2.2	*
2概念系 a. 定型	3.7	3.8	5.1	6.5	
2概念系 b. 行為描写型	70.2	47.4	1.4	3.7	**

** $p < .01$, * $p < .05$

まず、1非概念系については、JSとCSは、共に定型の感動詞を多く用いるという共通点が見られた。相違点として、a.定型とb.オノマトペ型のいずれにおいても、CSの生起頻度はJSより有意に高かったことが挙げられる（表3参照）。実際に生起した表現を見ると、CSにおいて、1a.定型では、「哈哈」や「嘻嘻」等を代表とするオノマトペ起源の感動詞、1bでは「啊啊哈哈」等の笑い声を表すオノマトペの使用が比較的多く見られたのに対して、JSには「ふふふ」や「ガハハ」、「ウキキキキキキキ」等使用は見られたものの、生起頻度は低い。非概念系におけるJSとCSの間の差は、これら笑いを表すオノマトペ起源の感動詞の使用頻度に起因すると考えられる。

次に概念系について見ると、a.定型の頻度に有意差が見られず、b.行為描写型においては、1%水準で有意差が見られた。JSでは、1組300送信における平均の生起頻度が70.2に上り、つまり、約4送信に1回、「笑」や「w」等を付加したメッセージが見られる。それに対し、CSでは、300送信に1.4と、頻度が非常に低く、またばらつきも大きい（表3参照）。

以上比較した結果、JSは概念系の行為描写型の「笑」「爆笑」⁴等の表現を、CSは非概念系の定型感動詞、中でも笑い声を模したオノマトペを最も多く用いることが明らかになった。概念系の「笑」は「笑顔で話しているという意味や、笑うべき内容であることを示す（岡本、2015）」とされているが、実際の会話を見ると、会話の内容に関係なく用いられる場合が多く見られ、送信者が相手との会話を楽しんでいるという気持ちを表出する方法の一つとして用いられていることが推察される。

³ これらの卑語、タブー語は、いずれも性的な言葉で日本語に訳出しにくい表現である。

⁴ 行為描写型に見られた「泣」の使用は1回のみである。

文字メッセージを入力している最中に、入力モードを変更せずに送ることができるため、他のビジュアル表現よりも簡便であることがその高い使用頻度につながったのではないかと推測する。日本語 SNS チャットにおけるもっとも頻用される行為描写型の表現は、解釈の幅が広いこと、会話のその場その場の送信者の特定の感情や気持ちを表すというより、送信者の会話の雰囲気への気配りを示し、楽しさを演出するツールとしての役割も果たすと考えられる。一方で、CS で最も多く見られる擬声語を起源とする感動詞は、受け手が文字メッセージを音声に再現できるため、より臨場感あふれる会話を構築するという役割を果たす。また、オノマトペは実際に使用する形式によって送り手の特定の感情や気持ちが表されるため、CS では、感情表出の感動詞の使用は、会話全体の雰囲気作りよりも文脈に即した感情表出を行うという傾向が見られると言えよう。

4. まとめと今後の課題

本研究では日本語と中国語の母語場面における SNS チャットに見られる感情表出の感動詞の比較を行い、両場面における共通点と相違点を明らかにした。両場面ともに、即興的、新規的な表現を含む様々な感動詞が用いられ、感情表出の感動詞を通して、会話への積極的な「関与」を示しているという共通した特徴が見られた。一方で、相違点として、主に以下の2点が挙げられる。1. 日本語母語場面では、「笑」「爆笑」等「行為描写型」感動詞の使用が非常に高い頻度で見られ、これらの表現は楽しい気持ちの表明で会話全体の雰囲気への気配りとしての役割を果たしているのに対し、中国語母語場面では、オノマトペ起源の感動詞が最も多く用いられ、音声会話を再現しているような臨場感の高いやり取りへの志向が見られた。2. 中国語母語場面では、卑語・タブー語を含む否定的な感情を示す感動詞に様々なバリエーションが見られ、中国語母語話者（若者）におけるインポライトな表現を通じた親しさの表明と「演出」という特徴が見られた。

最後に、本研究では統計的に有意差が見られたものの、両場面ともに感情表出の感動詞の使用における個人差が大きいという結果について触れたい。書記言語を媒介とする SNS における感情表出の表現は、音声会話と比較して、より意識的に行っていることが考えられる。すなわち、感情表出を積極的に行うか否か、どのような表現を選択するかは、相手との関係性や会話の内容だけでなく、チャットにおける感情の「演出」への捉え方にも関わるのではないかと思う。今後、SNS チャットコミュニケーションに関する日中両言語母語話者の意識調査も視野に入れて研究をしていきたい。また、SNS チャットの感情表出には、ビジュアル表現であるスタンプや絵文字等も多く用いられ、今後はこれらビジュアル表現を含めた日中両言語母語場面の感情表出の比較を行い、両場面のコミュニケーションの特徴のさらなる解明をしていきたいと思う。

謝辞 本研究は、JSPS 科研費課題番号 16K02803 及び JSPS 科研費課題番号 21K00619 の助成を受けたものである。

参考文献

- 浅田秀子(2017). 現代感動詞用法辞典 東京堂出版
- 中国社会科学院語言研究所詞典編集室(2012). 現代漢語詞典第6版 商務印書館
- 倉田芳弥(2022). 日韓母語場面の LINE チャットの会話における相づちの特徴—共話と対話の観点から— 拓殖大学語学研究, 147, 25-53.
- 三宅和子(2019). モバイルメディアにおける配慮—LINE の依頼談話の特徴 山岡政紀(編) 日本語配慮表現の原理と諸相, 163-180, くろしお出版
- 岡本能里子(2015). 雑談のビジュアルコミュニケーション—LINE チャットの分析を通して— 村田和代・井出里咲子(編) 雑談の美学: 言語研究からの再考, 213-236, ひつじ書房
- 澤村美幸(2011). 日本方言形成論の視点 岩波書店
- 椎名美智(2023). 悪態をつく人びと—シェイクスピア時代のコメディを分析する 滝浦真人・椎名美智(編) イン/ポライトネス: からまる善意と悪意, 197-230, ひつじ書房
- 朱景松(編)(2007). 現代漢語虚詞詞典 語文出版社出版
- Tannen, D. (1989). *Talking Voice: Repetition, Dialogue, and Imagery in Conversation Discourse*, Cambridge: Cambridge University Press.
- 楊虹・倉田芳弥(2023). LINE チャットの会話における感動詞の分析—日本語母語場面と日韓接触場面の比較を通して— 語用論研究 24, 79-98.
- 楊虹・佐々木泰子・倉田芳弥・加納なおみ・船戸はるな(2018). メッセージングアプリを利用した会話の中日比較 日語教育と日本学研究, 12-118.